

ウォーキング用のマップです。このままプリントアウトしてご利用ください。

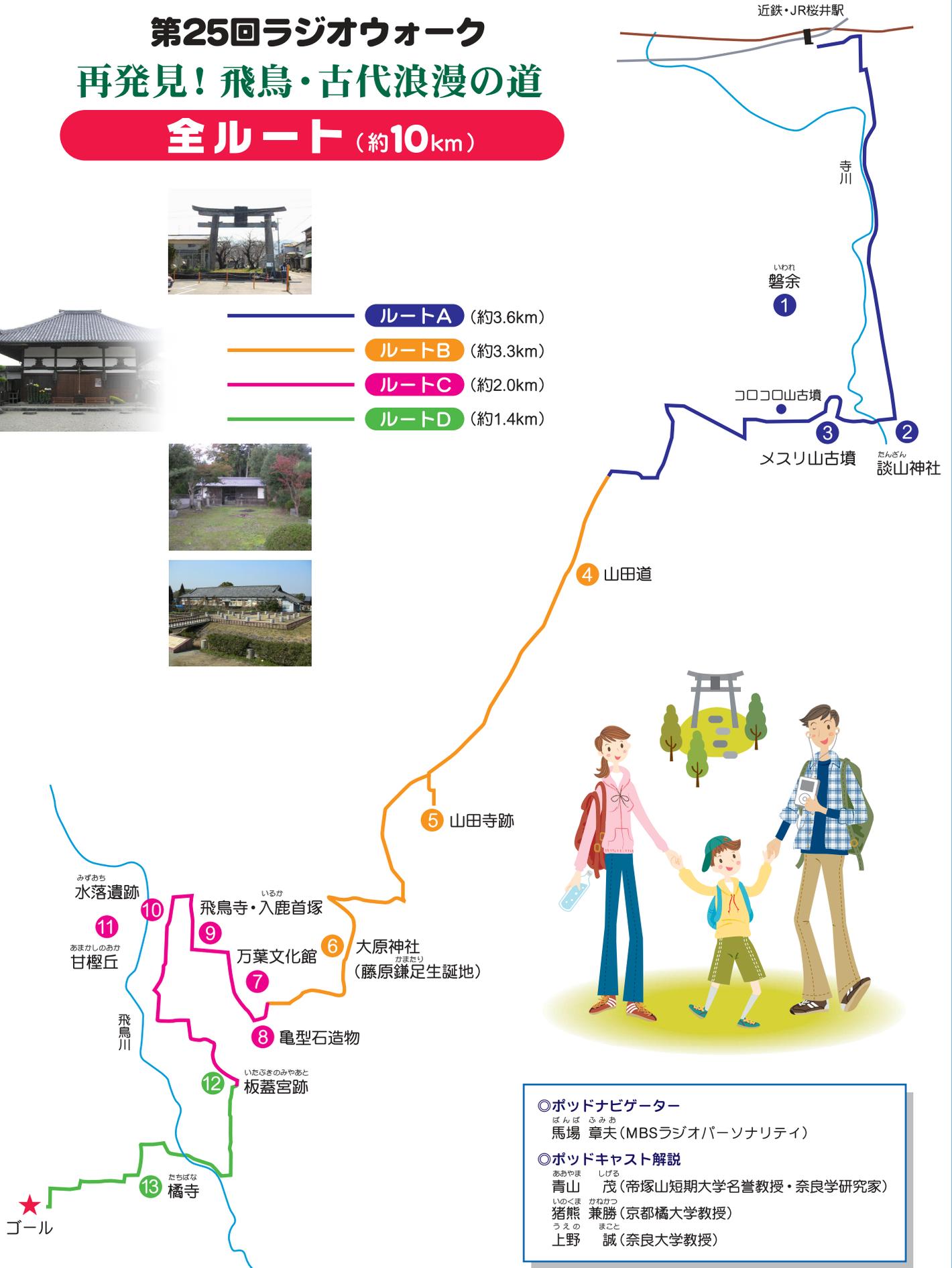


第25回ラジオウォーク 再発見! 飛鳥・古代浪漫の道

全ルート (約10km)



- ルートA (約3.6km)
- ルートB (約3.3km)
- ルートC (約2.0km)
- ルートD (約1.4km)



◎ポッドナビゲーター
 ぼんぼ ちのあ
 馬場 章夫 (MBSラジオパーソナリティ)

◎ポッドキャスト解説
 あみやま しげる
 青山 茂 (帝塚山短期大学名誉教授・奈良学研究者)

いのくま かねかつ
 猪熊 兼勝 (京都橘大学教授)

うえの まこと
 上野 誠 (奈良大学教授)

第25回ラジオウォーク 再発見! 飛鳥・古代浪漫の道

見どころガイド

① いわれ 磐余

現在の行政町名に磐余という名はありませんが、古代は今の桜井駅の南から西に広がる地域を磐余と呼んでいました。

飛鳥以前の天皇の宮居に、磐余〇〇宮のように、磐余の地名を冠したものが存在しました。

② たんざん 談山神社

多武峯に連なる御破裂山の南側に位置し、藤原鎌足が祀られています。神社本殿の裏山で、鎌足と中大兄皇子が蘇我入鹿の暗殺計画をひそかに練ったと伝えられ、大化の改新へとつながっていきます。これに由来して、多武峯は「大化の改新談合の地」と伝えられ、談山神社の名の起こりとなりました。



③ メスリ山古墳

全長約250m、全国14位の大型前方後円墳です。大型古墳のほとんどは天皇陵などに指定されていて調査できませんが、最近結果が発表された高槻市の今城塚古墳、桜井駅の東にある桜井茶臼山古墳などとともに、本格調査された数少ない大王クラスの古墳です。玉杖や、直径約1m・高さ約2.4mの最大クラスの埴輪をはじめ、盗掘を免れたそれぞれ200本以上の槍先や銅の矢尻なども発掘され、この地方に勢力を持つ、天皇クラスの人物の墓と想定されます。



④ 山田道

山田道は、橿原市の軽から雷丘を通り、桜井氏の安倍の辺りで、奈良から来た上ツ道と接続する重要幹線道路でした。

日本霊異記には、「少子部栖軽が天皇の命で山田道を走り抜け、雷を捕まえた。その場所を雷丘という。」という話が載っています。

⑤ 山田寺跡

山田寺は大化の改新で功績があった蘇我倉山田石川麻呂が641年に造営を始め、643年に金堂が完成しました。しかし石川麻呂は、異母弟の蘇我日向に讒言(事実を曲げた告げ口)され、難波から逃れてきて、造営中のこの寺で妻子とともに自害しました。後に陰謀であることが判明し、寺は天皇の援助で造営が続けられて、天武天皇の時(685年)にようやく完成しました。

本尊の薬師如来像は、1180年(治承4)源平の争乱の時、興福寺の僧兵に奪われて長い間行方知れずでしたが、1937年(S12)に発見されました(国宝・山田寺仏頭)。1982年(S57)、回廊の連子窓が創建時のままの姿で発掘され、これは世界最古の木造建築である現・法隆寺よりも30年余りも古い建築様式を残すものとして注目されました。



第25回ラジオウォーク 再発見! 飛鳥・古代浪漫の道

見どころガイド

⑥ 大原 神社(藤原鎌足生誕地)

やつり
八釣から大原(現・小原)の里に入ると、よく写真にも撮られる飛鳥らしい風景となります。この辺りは藤原氏の本拠地で、大原神社のあるところが藤原鎌足の出生地とされ、産湯の井戸と伝えられる跡がありました。神社の前には天武天皇と藤原夫人(鎌足の娘)の楽しい歌の歌碑が、そして反対側の木立の中にはおおとものぶにん
大伴夫人(鎌足の生母)の墓があります。



⑦ 万葉文化館

万葉文化館は、万葉集に題材をとった日本画150点を展示するとともに、古代文学研究の拠点としての研究所が併設されています。構内にある飛鳥池遺跡は、7世紀後半から8世紀にかけての、大規模な官営工場であることが分かりました。特に、「富本銭」が鋳造途中のものも含めて大量に見つかり、わが国最古の貨幣とされる「和同開珎(わどうかいちん、又はわどうかいほう)」より先に流通していたことも判明しました。



⑧ 亀型石造物

さかふねいし
2000年(H12)2月、酒船石のある丘の下、スタジアムの観覧席のような石敷きの階段に囲まれた広場で、浴槽かトイレのような形の水槽に接続する全長2.4m、幅2mの「亀型の石造物」が発掘され、20世紀最後の大発見と世間を驚かせました。すぐ近くの酒船石の下では、さいめい
斉明天皇が築いたというふたつきのみや
両槻宮の石垣も発見されており、その設備の一部とも考えられています。また、斉明天皇が大規模な土木工事をしたことや、道教思想の影響が大きいことから、それに関する祭祀・卜占の場とも推測されます。



⑨ 飛鳥寺・入鹿首塚

そがのうまこ
飛鳥寺は、蘇我馬子が建立したわが国初めての本格寺院です。日本最古の鋳造物である釈迦如来坐像が安置され、飛鳥大仏と呼ばれて親しまれています。創建時の伽藍は、塔を中心に3棟の金堂が取り囲む特異な形式で、飛鳥寺式と呼ばれています。西門の外に、大化の改新の契機となるいっし
乙巳の変で殺害された蘇我入鹿の首が飛んできた、といわれる入鹿首塚がありますが、実際は鎌倉時代の石塔のようです。この寺の西には大きな榎の木がある広場があり、そこで儀式や行事が行われましたが、有名な中大兄皇子と中臣鎌子(後の藤原鎌足)の出会いも、この広場で開かれた蹴鞠の会でのことでした。



第25回ラジオウォーク 再発見! 飛鳥・古代浪漫の道

見どころガイド

10 みずおち 水落遺跡

日本書紀に、中大兄皇子が初めて漏刻(水時計)を造り、人々に時刻を知らせた、と記されています。この遺跡は堅牢な礎石や導水用の銅管などが出土したことから、漏刻台であることが分かりました。建物は一辺約11mの正方形、高さは約9mと推定されます。上層・下層の2層構造で、下層には木箱が階段状に並べられ、建物に引きこんだ飛鳥川の水を上から落とし、木箱に溜まった水の量で時刻を読み取るという仕組みだったようです。上層に据えられた鐘や太鼓を使って、周囲に時刻を知らせていたとみられます。



11 あまかしのおか 甘樫丘

明日香村豊浦にある標高148mの丘です。2005年(H17)、丘のふもとに位置する甘樫丘東麓遺跡で、建物5棟分の柱穴(直径20~30cm)や、長さ約12mの塀の跡が見つかりました。

1994年(H6)にも現場すぐ傍で焼けた建築部材や土器が見つかっていて、蘇我入鹿の邸宅が存在した有力な証拠ではないかと注目されています。日本書紀によると、644年、蘇我蝦夷が丘の頂上、蝦夷の息子である入鹿が丘の麓に邸宅を築きましたが、それからわずか半年後、入鹿は乙巳の変で暗殺され、蝦夷も翌日に自邸と入鹿邸に火を放って自害したとされます。丘の頂上に建てられた蝦夷邸は、強大な蘇我氏の権力を象徴する存在だったと考えられます。



12 いたぶきのみやあと 板蓋宮跡

皇極、孝徳、斉明天皇の皇居です。この遺跡は一番下から、『岡本宮』、大化の改新の幕開けとなった乙巳の変の舞台である『板蓋宮』、さらに『後岡本宮』、『浄御原宮』と遺構が積み重なっているため発掘には慎重を要し、まだ完全には解明されていません。現在復元されている大井戸などは、『浄御原宮』のものではないかと考えられています。



13 たちばなでら 橘寺

寺伝では、聖徳太子の生誕地とされています。本尊は木彫りの太子像です。

かつては60余りの堂塔が建っていましたが、多武峯の僧兵の焼き討ちに遭い衰退しました。境内の二面石は飛鳥の謎の石造物のひとつで、約1mの石の両面に人の顔が彫られており、北面が人の心の善、南面が人の心の悪を表しているとのこと。

